



2025 年度 教育開発・学習支援センター年報

目 次

2025 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター活動報告	1
2025 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター ユニット活動報告	
教育サポートユニット	5
学習サポートユニット	9
データ活用推進ユニット	13
巻末資料	15

2025 年度 教育開発・学習支援センター活動報告

教育開発支援機構

教育開発・学習支援センター長

1 事業執行体制

教育開発支援機構長 : 山本兼由 (生命科学部教授)
センター長 : 酒井理 (キャリアデザイン学部教授)
教育サポートユニット
リーダー : 秋野喜彦 (情報科学部教授)
サブリーダー : 末武康弘 (現代福祉学部教授)・小堀真知子 (グローバル教養学部准教授)
学習サポートユニット
リーダー : 荒井弘和 (文学部教授)
サブリーダー : 高橋五月 (人間環境学部教授)・佐野竜平 (現代福祉学部教授)
データ活用推進ユニット
リーダー : 平野利幸 (理工学部教授)
サブリーダー : 長谷川翔平 (経営学部准教授)・橋爪絢子 (社会学部准教授)
事務局 : 学務部学務課

2 センター活動報告

(1) 各教育センターとの連携：共通教育運営委員会における各教育センターとの情報共有

2025 年度に開催された 10 回の教育開発支援機構企画委員会に出席し、LFC の活動に関して他センターと情報共有した。特に、LMS に関する調査実施は、あらかじめ予定していた事業であるがタイミングよく ILAC の要望にも応えることができた。LFC では学生向けの生成 AI 導入の検討を開始していたが職員向けの生成 AI の導入の動きを共有することができた。

(2) センター活動の学内 PR と認知度向上：HP の充実／SNS の活用促進／年度末の広報活動分析

センターの活動を広く周知するため Web 掲示板、HP 等により複数のメディアを利用して発信することに取り組んだ。広報効果として、HP のアクセス数は 48,466 (2024 年度)→42,425 (2025 年度)と増加はしなかったものの一定のアクセスは確保できた。学部長会議、研究科長会議での事業展開に応じて逐次報告を行った (出席報告回数 10 回)。4 月の新任研修における FD に関する講習の機会を利用した認知度向上に努めた。また、2024 年度教育開発・学習支援センター年報としてまとめ発行して成果を広く情報公開した。

(3) 他大学との連携促進と FD 情報の収集：全国私立大学 FD 連携フォーラム／大学コンソーシアム京都 FD フォーラムへの参加

全国私立大学 FD 連携フォーラムでは、テーマとなった「内部質保証の実質化」に関して各大学と情報交換することができた。内部質保証と IR、学生参画との連携、学習成果の可視化とカリキュラムの整合性などの先進的な事例を収集するとともに、本学で今年度より本格的に稼働している LMS の改善に繋げるために他大学の情報を収集した。

関東圏 FD 連絡会 (青山学院大学・國學院大学・東洋大学・法政大学・立教大学) では、「教育の質保証における学生を対象とした調査の取り組み」と「生成 AI の活用」に関して情報収集できた。特に他大学における授業改善アンケートの実施実態、回収率の状況を把握することができた。

大学コンソーシアム京都 FD フォーラムでは、本学でも重要な課題となっている AI 時代の大学教育に関する情報を収集した。UeLA フォーラムにおいても、教育工学、教育学の研究者、大学行政者による生成 AI 時代の学びをどのように設計し直すかの議論から今後の本学の取り組みに活かせる情報を得た。

(4) 学部・教員への報告による活動内容の周知：新任研修における活動紹介／学部長会議・研究科長会議における報告と周知

学部長会議、研究科長会議での事業案内、実績報告については、事案の重要度に応じて丁寧に説明することに努めた。L ステゼミについては、2024 年度から引き続き、学部長会議・研究科長会議の案内に加えて、直接教員宛にメール配信をするなど LF センターからダイレクトに情報発信をすることで講師応募者数を高止まりで維持することができた。新任教員研修会、FD 教員セミナーといった教員とのタッチポイントでは、LF センターの認知度の向上に向けて役割、実績をアピールした。

3 各ユニット活動報告

(1) 教育サポートユニット

- a 授業リフレクションのための学生による授業参観 [巻末資料 1]
実施授業数：春学期 8 授業（教員 7 名、博士後期課程学生 1 名）、秋学期 8 授業（教員 8 名）
参観登録学生：53 名（春学期 34 名、秋学期 19 名）
参観学生：春学期 24 名、秋学期 23 名
- b 学生 FD スタッフ活用による FD プロジェクトの実施
学習サポートユニットと合同
- c FD 教員セミナー3 回実施 [巻末資料 2～4]
 - ・学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 vol.5（参加者数：127 名）
 - ・学習支援システム (WebClass) での剽窃チェックソフト (Turnitin FeedbackStudio) の利用について（参加者数：98 名）
 - ・学習支援システム (Hoppii・WebClass) の基本的な使い方（参加者数：204 名）
- d Newsletter の発行（7 回発行）
- e 学部等教授会への FD 研修（11 学部 1 研究科 1 インスティテュート、18 回動画視聴）
新規作成動画 3 本（既存作成動画 2 本）
利用学部と回数：経済、国際文化 5、人間環境、情報科学、スポーツ健康、経営 2、キャリアデザイン、理工 2、連帯社会インスティテュート、現代福祉 2、生命科学、グローバル教養、イノベーション・マネジメント研究科
- f 教員による授業相互参観 256 件
- g FD/SD ワークショップ [巻末資料 5]
変革期における新たな大学教育の可能性
教職員参加者数 169 名
- h シラバスの点検と改善
「授業分類方法」の追加に伴う記載内容の変更
- i 学習支援システム運営委員会の運営（3 回実施）

(2) 学習サポートユニット

- a 『学習支援ハンドブック』の改訂と発行 [巻末資料 6]
「単位に関する考え方」および「Halo の活用方法」に関する記事の新規作成
2026 年度版の発行
- b 『T・A ハンドブック』の改訂と発行 [巻末資料 7]

- 2026 年度版の内容検討
- c 学習ステーションの運営（学生スタッフ：春学期 44 名、秋学期 40 名）
新入生サポートプログラムの実施（新入生：のべ 848 名、サポーター：45 名）
学生企画型プログラムの支援（学習ステーション企画 13 回実施、他団体企画 3 回実施）
 - d 正課学習を支援する正課外活動の充実 [巻末資料 8]
L ステゼミの開催（15 回、講師応募数 47 件）
 - e プレ FD プログラムの実施（今年度修了者 1 名） [巻末資料 9]
 - f プレ FD プログラム修了者リスト登録制度の運用
学部・研究科・ILAC/KLAC への情報共有（春 1 回 秋 1 回 のべ 2 回）
大学院課との大学院生情報交換コミュニティ検討ミーティング（2 回開催、プレ FD 申請見込み学生へのヒアリング 5 回）
 - g ピアネット運営委員会の運営
ピアネット学生スタッフ合同研修会の開催（56 名参加）
 - h 学習環境改善検討委員会の運営（1 回開催）
 - i 学生 FD スタッフ活用による学生 FD プロジェクト
教育サポートユニットと合同開催
Halo 活用事例 6 件収集して学習支援ハンドブックに掲載

（3）データ活用推進ユニット

- a 学生に対するデータ収集と活用 [巻末資料 10]
授業改善アンケートの企画・実施と分析
（回収率 春学期 16.6%、秋学期 未集計）
・HP 公開（2024 年秋学期分 2025 年 5 月 15 日、2025 年春学期分 10 月 17 日）
生成 AI の利用に関する調査の実施と分析（回収率 1.7%） [巻末資料 11]
・学部長会議報告（2026 年 1 月 29 日）
学習支援システムの使用に関するデータ収集と分析
・WebClass 利用状況（教員の利用率 92.3%）
- b 教員に対するデータの収集と分析 [巻末資料 11]
授業運営にかかる支援ニーズの把握
・FD 教員セミナー参加者アンケートで実施（13 件）
生成 AI の利用に関する調査の実施と分析（回収率 13.7%） [巻末資料 12]
・学部長会議報告（2026 年 1 月 29 日）
学習支援システムの使用に関するデータ収集と分析（回収率 14.7%） [巻末資料 12]
・学部長会議報告（2026 年 1 月 29 日）
- c 全学レベルでの FD データ活用
学修成果可視化システム（Halo）のデータ活用方法の検討・案内
・学部単位での活用方法の事例提案の報告
（3 事例、2026 年 3 月 10 日リーダー会議）
成績データの GPA/GPCA の時系列・規模別・学部別集計分析
・2024 年度秋学期全学 GP 及び授業別 GPCA 集計結果の報告（2025 年 6 月 19 日）
・2025 年度春学期全学 GP 及び授業別 GPCA 集計結果の報告
（2025 年 12 月 11 日）
成績データ GPA/GPCA の妥当性と活用方法の検討
・リーダー会議内において報告（2026 年 3 月 10 日）

4 学内会議

（1）教育開発支援機構企画委員会

10 回（4/17、5/22、6/12、7/17（メール）、9/18、10/23、11/13（メール）、12/18、1/22、3/12）

（2）ユニット・リーダー会議

10 回（4/7、5/12、6/2、7/7、9/1、10/7、11/4、12/2、1/13、3/10）

5 所属学会・参加団体・外部対応

- (1) 全国私立大学FD連携フォーラム (JPFF: Japan Private Universities FD Coalition Forum)
(41 大学加盟): 幹事校
幹事会・総会・シンポジウム (6/14)
- (2) 関東圏FD連絡会 (青山学院大学・國學院大学・東洋大学・法政大学・立教大学)
連絡会 (9/1)
- (3) 大学eラーニング協議会 (UeLA): 監査校
UeLA 幹事会 (5/19、7/23、9/18、10/27、11/26、2/2)
UeLA 2025 年度総会・UeLA フォーラム・JADE & UeLA 合同フォーラム (3/4・5)

6 その他

大学コンソーシアム京都「第31回FD・SDフォーラム」(2/28・3/1): 教職員3名

以 上

2025 年度 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター ユニット活動報告

<教育サポートユニット>

I 2025 年度活動計画

1 ユニット・メンバー（五十音順、*: ユニット・リーダー、**: ユニット・サブリーダー）

秋野喜彦（情報科学部）*
小堀真知子（グローバル教養学部）**
末武康弘（現代福祉学部）**
高見公雄（デザイン工学部）
土屋貴之（～2025/5/31 学務部教育支援課、2025/6/1～学務部学務課）
寺崎里水（キャリアデザイン学部）
松岡駿太（リカレント・通信教育センター事務局通信教育部事務課教務担当）
[事務局] 鍋田純子（～2025/5/31 学務部教育支援課教育支援担当、2025/6/1～学務部学務課教育支援担当）

2 活動目的

授業レベル、学部・研究科レベル、全学レベルそれぞれでの教育支援を行う。

3 活動計画

(1) 教員への教育支援

a 授業リフレクションのための学生による授業参観の実施

- (a) 教員の応募が少ない状況への対応（とくに専任）
- (b) 兼任講師への周知とニーズに応える工夫をする

b FD 教員セミナーの実施（生成 AI 対応含む）

- (a) 3 回実施（昨年度は 7 月、11 月、3 月に実施。変更の可能性あり）
 - 「ベストティーチャーによる授業運営の工夫」vol.5
 - 「生成 AI の具体的・実践的な活用」
 - 「新学習支援システム（WebClass）の活用方法・活用例」

その他のテーマ案は以下。

- 「障がい学生への合理的配慮」（←昨年度実施のため今年度は実施しない）
- 「著作権」（専門領域の違いによる留意点など）
- 「ハラスメント」（ハラスメント相談室と共同も視野に入れる）

(b) 昨年度テーマ

- 「学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 vol.4」（7 月）
- 「障害のある学生への合理的配慮と建設的対話－教職員ができること－」（11 月）
- 「授業における生成 AI ツールの活用と対策」（3 月）

c 「Newsletter」の発行

- 年間 5 回（以上）発行予定（6 月、7 月、10 月、12 月、3 月）
 - ・セミナーに関しての情報発信（3 回）
 - ・授業リフレクションのための学生による授業参観、FD プロジェクト、その他から 2 回以上

d アカデミック・サポートサービスの運用及び当該サービスの一層の普及への検討

普及のため Web 掲示板を活用。場合によっては Newsletter の発行を検討。

e FD 動画サービスの導入・運用

- 全国私立大学 FD 連携フォーラム(JPFF)が提供する「実践的 FD プログラムオンデマンド講義」を導入・運用する。

(2) 学部・研究科への教育支援

- a 学部等教授会への FD 研修サポートの推進（オンデマンド教材の追加）
 - ・ JPFF の動画コンテンツ（***テーマについては要検討）の視聴を促進
 - ・ オンデマンド化による FD 研修を促進のため動画コンテンツの作成。
24 年度には、(a) 障がいのある学生への合理的配慮について、および (b) 大学設置基準における単位制度と単位についてを作成し各学部教授会にて視聴できるようにした。
 - ・ 他テーマ案
 - (c) 学生問題関連（学生センターに打診を検討）
 - (d) ハラスメント関連（ハラスメント相談室に打診を検討）
- b 教員による授業相互参観の促進
各学部の実施状況を取りまとめ共有する。

(3) 全学レベルでの教育支援

- a FD/SD ワークショップの実施
 - (a) 1 回実施（9 月 5 日（金）午後予定）
 - (b) 昨年度テーマ：これからの学校教育が目指すべきもの－主体性と当事者性－
- b シラバスの点検と改善
必要に応じてシラバスの点検と改善を実施する。
- c 学習支援システム運営委員会の運営
年 2 回開催予定
- d 学習支援システムに関わる教員サポートの実施（研修など）
FD 教員セミナー以外にセミナー（研修・相談会）を実施する

以上

II 2025 年度活動実績（報告）

1 教員への教育支援

（1）授業リフレクションのための学生による授業参観の実施

[巻末資料 1]

2025 年 5 月 24 日（土）13:00～14:30 に事前研修を実施した。

授業参観は以下の通り実施

実施期間 : 春学期 6 月 23 日（月）～ 7 月 23 日（水）
秋学期 11 月 24 日（月）～12 月 22 日（月）
参観登録学生 : 53 名（春学期 34 名、秋学期 19 名）
参観学生 : 春学期 24 名
秋学期 23 名
実施授業数 : 春学期 8 授業（教員 7 名、博士後期課程学生 1 名）
秋学期 8 授業（教員 8 名）

（2）FD 教員セミナーの実施（生成 AI 対応含む）

以下の日程・内容にて、計 3 回実施した。

① 2025 年度第 1 回 FD 教員セミナー

[巻末資料 2]

日時 : 2025 年 7 月 30 日（水）18:00～19:30
テーマ : 学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 vol.5
参加者数 : 127 名

② 2025 年度第 2 回 FD 教員セミナー

[巻末資料 3]

日時 : 2025 年 12 月 23 日（火）18:00～19:30
テーマ : 学習支援システム（WebClass）での剽窃チェックソフト
（Turnitin Feedback Studio）の利用について
参加者数 : 98 名

③ 2025 年度第 3 回 FD 教員セミナー

[巻末資料 4]

日時 : 2026 年 3 月 18 日（水）14:30～16:00
テーマ : 学習支援システム（Hoppii・WebClass）の基本的な使い方
参加者数 : 204 名

（3）「Newsletter」の発行

2025 年度 1 号（2025 年 9 月 1 日）
2025 年度第 1 回 FD 教員セミナー開催報告

2025 年度 2 号（2025 年 9 月 22 日）
2025 年度春学期プレ FD プログラム実施報告

2025 年度 3 号（2025 年 10 月 10 日）
法政大学第 27 回 FD・SD ワークショップ開催報告

2025 年度 4 号（2026 年 1 月 13 日）
学生 FD スタッフおよび学生 FD プロジェクト開催報告

2025 年度 5 号（2026 年 1 月 22 日）
2025 年度第 2 回 FD 教員セミナー開催報告

2025 年度 6 号（2026 年 3 月 10 日）
2025 年度「授業リフレクションのための学生による授業参観」実施報告

2025 年度 7 号 2026 年 3 月 31 日
2025 年度第 3 回 FD 教員セミナー開催報告

以上、計 7 号発行

(4) アカデミック・サポートサービスの運用及び当該サービスの一層の普及への検討

近年の利用者数の増加に向けて、対象を教員(兼任講師含む)・職員に加え、大学院生まで拡大し、オンライン実施を導入する等、運用に工夫を試みたが、利用コマ数が激減している状況であること、また、利用用途が多かった「簡単な英文校閲」は、DeepL等の翻訳ツールや生成AIツールが代替手段として利用されていると考えられ、今後も著しい利用者の増加は見込めない。以上により、本サポートサービスは今年度をもって終了とした。

2 学部・研究科への教育支援

(1) 学部等教授会へのFD研修サポートの推進(オンデマンド教材の追加)

全学的な事項についての共通理解・認識を図る目的で実施している教授会FD・SD研修は、昨年度より動画コンテンツを提供し、視聴する方法に変更した。昨年度作成した以下①および②に加え、今年度は③～⑤の3本のコンテンツを作成・提供した。

2024年度作成コンテンツ

- ① 「障がいのある学生への合理的配慮について」(約 20 分)
- ② 「大学設置基準における単位制度と単位について」(約 12 分)

2025年度作成コンテンツ

- ③ 「多様な学生が安心・安全に学べる授業運営に向けて」(15 分程度)
- ④ 「性の多様性に包摂的な大学とは：SOGI ハラスメントを考える」(15 分程度)
- ⑤ 「違いを尊重する教育現場とは？レイシャルハラスメントを考える」(15 分程度)

実施学部／研究科

- ① 経済、国際文化、人間環境
- ② 国際文化、情報科、スポーツ健康
- ③ 経営、国際文化、現代福祉、キャリアデザイン、理工
- ④ 経営、国際文化、連帯社会インスティテュート
- ⑤ 国際文化、現代福祉、理工、生命科、グローバル教養、イノベーション・マネジメント

(2) 教員による授業相互参観の促進

実施期間 : 学部により異なる

実施授業数 : 256 件

3 全学レベルでの教育支援

(1) FD/SD ワークショップの実施

第 27 回 FD・SD ワークショップ／教育支援研修(ハイレックス開催)

[巻末資料 5]

日時 : 2025 年 9 月 5 日(金) 13:00~16:00

テーマ : 変革期における新たな大学教育の可能性

参加者数 : 169 名

(2) シラバスの点検と改善

2026 年度シラバスより、新たに「授業方法分類」を追加することに伴い、「シラバス作成ガイドライン」に当該選択項目を新たに追加し、従来「授業時間外の学習」に記載していた授業分類の記載を削除することとした。

(1) 学習支援システム運営委員会の運営

2025 年 4 月 25 日(金) 第 1 回学習支援システム運営委員会(メール会議)

2025 年 9 月 2 日(火) 第 2 回学習支援システム運営委員会

2026 年 3 月 11 日(火) 第 3 回学習支援システム運営委員会

(4) 学習支援システムに関わる教員サポートの実施(研修など)

本年度の重点内容として挙げていた本件については、第 3 回 FD 教員セミナーにおいて、日本データパシフィック社の担当者による学習支援システム(WebClass)の基本的な利用方法に関する研修を実施した。

以上

<学習サポートユニット>

I 2025 年度活動計画

1 ユニット・メンバー（五十音順、*：ユニット・リーダー、**：ユニット・サブリーダー）

油本真理（法学部）
荒井弘和（文学部）*
片上千恵（スポーツ健康学部）
佐野竜平（現代福祉学部）**
高橋五月（人間環境学部）**
土屋貴之（～2025/5/31 学務部教育支援課、2025/6/1～学務部学務課）
平田雄大（大学院事務部大学院課）
[事務局] ～2025/5/31 齊藤光平（学務部教育支援課教育支援担当）
→2025/6/1～宮崎純佳（教務部市ヶ谷学部事務課共通業務担当）

2 活動目的

学習サポートユニットの主たる活動目的は次のとおりである

- (1) 学生の主体的な学習の支援に関する教育環境・学習環境の研究及び整備を行うこと
- (2) 全学的な教育支援施策、学習支援施策、教育・学習環境整備の企画、提案及び調整を行うこと

3 活動計画

上記目的を達成するために、次の学習支援活動を実施する。

(1) 主体的学習のハード・ソフト支援

- a 「学習支援ハンドブック」の内容検討と発行
 - (a) 2026 年度版の内容検討および加筆修正の実施
 - (b) 利用状況（アクセス数）の把握と今後の活用方法の検討
- b 「T・A ハンドブック」の内容検討と発行
 - (a) 2026 年度版の内容確認（必要に応じて修正）
 - (b) 利用状況（アクセス数）の把握
- c 学習ステーションの運営と活用促進
 - (a) 新入生サポート事業の実施
 - (b) 学生企画型プログラムの支援
- d 学生 FD スタッフ活用による学生 FD プロジェクトの活性化
 - (a) 3 キャンパスにおける学生 FD プロジェクトの実施
 - (b) 学生における Halo の活用事例の収集
- e 学生の主体的な学びにつながる学習環境情報の整理・発信
学習支援ハンドブックの改訂

(2) 正課外の学習サポート

- a 正課学習を支援する正課外活動の充実（L ステゼミの実施）
「基礎的学習スキル」と「専門分野以外の幅広い学びの機会」を提供するゼミ企画
- b プレ FD プログラムの実施（参加の事前研修の実施検討）
 - (a) プレ FD プログラムの運用と情報発信による参加促進
 - (b) プレ FD プログラムの修了者インタビューの実施
 - (c) プレ FD プログラムとしての L ステゼミの教員参観の促進
- c プレ FD 修了者のリスト登録制度の運用
プレ FD プログラムの修了者のリスト化と学部・研究科・ILAC・KLAC への情報提供にかかる事業スキームの検討
- d プレ FD 修了者の情報交換コミュニティの企画検討（大学院課との調整）
 - (a) 情報交換コミュニティ参加候補者（プレ FD プログラム 3 企画のうち 1 つだけでも参加した大学院生）リストの作成

(b) 情報交換コミュニティに期待する機能に関する情報収集

(3) 学習環境整備の調整

- a 学習環境改善検討委員会の運営
学習環境改善のための支援と整備に向けた意見集約の実施
- b ピアネット運営委員会の運営
(a) ピアネット合同研修会の企画と実施
- c ピア・ラーニングスペースの活用促進
(a) 利用実績の集計
(b) ピアネット企画での活用促進

以上

II 2025 年度活動実績（報告）

1 主体的学習のハード・ソフト支援

(1) 「学習支援ハンドブック」の内容検討と発行

[巻末資料 6]

- ・2026 年度版の改訂方針を検討し、「単位に関する考え方」および「Halo の活用方法」を新規に作成、掲載内容と配置案を確定した。特に「Halo の活用方法」については、各種システム紹介箇所につけて掲載し、成績評価箇所にも参照を付す構成とした。
- ・学生の Halo 利用実態をハンドブックへ反映する方針のもと、情報収集の場として、学生 FD プロジェクトを位置づけた。

(2) 「T・A ハンドブック」の内容検討と発行

[巻末資料 7]

- ・2026 年度版作成に向けて、委員全員で校正確認を行う体制を整備した。

(3) 学習ステーションの運営と活用促進

- ・漸減したものの、例年と同水準であった。あらゆる学習施設の利用者が減っていることを考えると、妥当な利用状況であったと考えられる。
- ・学習ステーション学生スタッフに在籍する留学生の大学院生の特性を活かし、留学生向けイベントを実施できる可能性が話し合われた。
- ・シリーズ企画として、学習ステーション学生スタッフが主催する「L ステカフェ」が開講された。

(4) 学生 FD スタッフ活用による学生 FD プロジェクトの活性化

- ・学生 FD プロジェクトを年度事業の柱として推進し、3 キャンパス学部生を対象にオンライン座談会を実施した。前年の運営課題を踏まえ、事前アンケートを Google フォームで実施し、回答をもとに論点を絞って対話を進める運営方法を採用した。振り返りでは、負担軽減のため設問数削減、事前アンケートの有効性、学生募集対象の拡大などの改善点を共有した。
- ・「Halo の利用」をテーマの一つに設定し、学生がどのように Halo を活用しているのか事例を聞き取り、学習支援ハンドブックに記載した。

(5) 学生の主体的な学びにつながる学習環境情報の整理・発信

- ・学生 FD プロジェクトにおいて、学生が推奨する学習スポットを聞き取り、学習支援ハンドブックに記載した。学習支援ハンドブック改訂において動画リンクの不具合を確認し、対応した。

2 正課外の学習サポート

(1) 正課学習を支援する正課外活動の充実（L ステゼミの実施）

[巻末資料 8]

- ・学習ステーション「L ステゼミ」について、講師募集と運用方針を確認した。春学期・秋学期とも、例年水準の運用であった。
- ・なお、多摩キャンパス所属の学習ステーション学生スタッフから希望があれば、多摩キャンパスでの L ステゼミ開講を検討する。現時点では、多摩キャンパスの学生スタッフから、多摩キャンパスでの開講希望は出ていない。

(2) プレ FD プログラムの実施（参加の事前研修の実施検討）

[巻末資料 9]

- ・博士後期課程大学院生向けプレ FD プログラムについて、年度当初に実施方針を確認した。春学期の申請者 1 名については、修了を確認した。
- ・在学する全てのプレ FD プログラム修了者に対して、紀要『情報メディア教育研究センター 研究報告』への執筆機会を提示することをインセンティブとして共有した。

(3) プレ FD 修了者のリスト登録制度の運用

- ・プレ FD の参加者を段階的に把握する方針として、プログラムの構成要素のいずれかに参加した大学院生を「見込み客」としてリスト化する目標を設定したが、該当者は認められなかった。

(4) プレ FD 修了者の情報交換コミュニティの企画検討（大学院課との調整）

- ・プレ FD プログラムの修了者 2 名に対するインタビューや、大学院生を対象としたヒアリングを踏まえ、大学院生の交流機会不足を課題として共有し、修了者の意見を聞く場の設置、オンラインを含む交流や懇親機会の設定を検討課題として整理した。交流会を開催する場合は、小規模開催を基本方針として確認した。一方で、多忙を理由とする不要意見が併存することも確認された。
- ・関連して、来年度に全専攻対象の新規プレ FD 科目を設置予定であることが共有され、当該科目がコミュニティとして機能し得る点、周知の必要性が議論された。

3 学習環境整備の調整

(1) 学習環境改善検討委員会の運営

- ・学習環境改善のための支援と整備を行うため、3月31日にオンライン会議を開催し、関連部局との意見交換を行った。

(2) ピアネット運営委員会の運営

- ・ピアネット学生スタッフ合同研修会が1回実施された。振り返りでは、ピアネットの一員であることを認識できるような内容、もしくは、各部局単位では実施しにくい内容を、研修会のテーマとして取り上げてはどうかとの意見が出された。

(3) ピア・ラーニングスペースの活用促進

- ・利用状況の分析と活用促進策の検討を継続した。具体的には、多摩キャンパスの利用者が少ない現状認識を共有し、利用目的の把握、学習ステーションの「学びのハブ」化、秋学期のイベント重点化、学部事務課との定期共有、紹介動画の周知、学生証による入退室管理徹底などの提案が共有された。また、利用者数が漸減している状況を共有しつつ、対面授業増加に伴うオンライン受講場所需要の減少可能性や、混雑印象による利用抑制の可能性などの要因を検討した。春のデータ分析時における委員コメントを受け、実行可能なアイデアは即時に採用された。また、利活用促進の一環として学生センター（ボランティアセンター）学生スタッフによるパネル展示の実施や盲導犬企画（3/13実施予定）、学生FDスタッフによる「学生FDスタッフが教えるポスター制作教室」が開催された。

以上

<データ活用推進ユニット>

I 2025 年度活動計画

1 ユニット・メンバー（五十音順、*: ユニット・リーダー、**: ユニット・サブリーダー）

尾池秀章（生命科学部）
大嶋良明（国際文化学部）
土屋貴之（～2025/5/31 学務部教育支援課、2025/6/1～学務部学務課）
西村健（経済学部）
橋爪絢子（社会学部）**
長谷川翔平（経営学部）**
平野利幸（理工学部）*
藤原茂之（学務部教育支援課システム担当）（～2025 年 5 月 30 日）
松本雄大（総長室大学評価室）
森山祐紀（総長室大学評価室）
[事務局] ～2025/5/31 岩田裕美（学務部教育支援課教育支援担当）、林美和（学務部教育支援課教育支援担当）→2025/6/1～鍋田純子（学務部学務課教育支援担当）

2 活動目的

各種アンケートの実施等によってデータの収集を行い、FD 活動へのフィードバックとなるようデータの分析・活用の提案等を行う。

3 活動計画

(1) 学生に対するデータ収集と活用

- a 授業改善アンケートの企画・実施と分析
 - (a) 昨年度に実施した「学生による授業改善アンケート」の分析・報告等を行い、必要に応じて調査等も行う。
 - (b) 回答率向上に向けた検討を行う。
- b 生成 AI の利用に関する調査の実施と分析
「生成 AI の利用に関する学生対象調査」の実施・分析・報告等を行う。
- c 学習支援システム lms2025 の使用に関するデータの収集と分析
学習支援システム lms2025 の使用に関するデータの分析等をし、一層の活用に向けた提案を行う。また、活用事例等を収集するため、必要に応じて調査の実施を検討する。

(2) 教員（特に兼任講師）に対するデータの収集と分析

- a 授業運営にかかる支援ニーズの把握
教員（特に兼任講師）から意見収集する方法を検討・実施し、支援ニーズの掘り起こしを行う。
- b 生成 AI の利用に関する調査の実施分析
「生成 AI の利用に関する教員対象調査」の実施・分析・報告等を行う。
- c 学習支援システム lms2025 の使用に関するデータの収集と分析
学習支援システム lms2025 の使用に関するデータの分析等をし、一層の活用に向けた提案を行う。また、活用事例等を収集するため、必要に応じて調査の実施を検討する。

(3) 全学レベルでの FD データ活用

- a 学修成果可視化システム（Halo）データ活用方法の検討・案内
Halo の一層の活用に向けて、そのデータ活用方法等の提案を行う。
- b 成績データの GPA/GPCA の時系列・規模別・学部別集計分析
成績データの時系列・規模別・学部別集計分析・報告等を行う。
- c 成績データ GPA/GPCA の妥当性と活用方法の検討と案内
経年の成績データから、これまでの傾向等を仮説を立てて検証し、GPA/GPCA の活用に向けた検討を行う。

以上

II 2025 年度活動実績（報告）

1 学生に対するデータ収集と活用

（1）授業改善アンケートの企画・実施と分析

[巻末資料 10]

- a 2024 年度秋学期および 2025 年度春学期「学生による授業改善アンケート」の結果を報告した。また、回答率向上に向けた議論を行い、アンケートの開催時期を検討した。回答率向上もさることながら、授業改善アンケートが始まってから教育環境が変化していることから、改めてアンケートの意義を確認する時期にきていると考えられる。
- b 結果はユニット・リーダー会議（第 2 回（2025 年 5 月 12 日（月）実施）・第 6 回（10 月 7 日（火）実施））了承後、学部長会議で報告の上、同報告書を教育開発・学習支援センターホームページにて公開した。

（2）生成 AI の利用に関する調査の実施と分析

[巻末資料 11]

- a 同アンケート調査は、ユニット内で質問内容を検討し、全学部生・大学院生を対象として実施した。
- b 同報告書は教員対象の調査結果とともにユニット内でまとめ、第 9 回ユニット・リーダー会議（2026 年 1 月 13 日（火）実施）に報告、了承された。
- c 同報告書は学部長会議報告後、教育開発・学習支援センターホームページにて公開した。

（3）学習支援システム lms2025 の使用に関するデータの収集と分析

- a システムの利用状況を調査し、ログイン数、WebClass 利用状況などを分析し検討した。学習支援システムを導入して最初の年度であるため、昨年度使用していたシステムと比べると操作方法がわかり難いという声の一部あった。

2 教員（特に兼任講師）に対するデータの収集と分析

（1）授業運営にかかる支援ニーズの把握

- a 2025 年度第 2 回 FD 教員セミナー参加者アンケートで実施し、その中で回答した参加者の意見・要望を確認した。

（2）生成 AI の利用に関する調査の実施分析

- a 同アンケート調査は、ユニット内で質問内容を検討し、教員（兼任講師を含む）を対象として実施した。
- b 同報告書は学生対象の調査結果とともにユニット内でまとめ、第 9 回ユニット・リーダー会議（2026 年 1 月 13 日（火）実施）に報告、了承された。
- c 同報告書は学部長会議報告後、教育開発・学習支援センターホームページにて公開した。

（3）学習支援システム lms2025 の使用に関するデータの収集と分析

[巻末資料 12]

- a 同アンケート調査は、ユニット内で質問内容を検討し、教員（兼任講師を含む）を対象として実施した。
- b 同報告書（教員）はユニット内でまとめ、第 9 回ユニット・リーダー会議（2026 年 1 月 13 日（火）実施）に報告、了承された。
- c 同報告書は学部長会議報告後、教育開発・学習支援センターホームページにて公開した。

3 全学レベルでの FD データ活用

（1）学修成果可視化システム（Halo）データ活用方法の検討・案内

- a 学部学科単位での活用方法について検討し、その活用事例を取りまとめ、提案した。

（2）成績データの GPA/GPCA の時系列・規模別・学部別集計分析

- a 「2024 年度秋学期全学 GP 及び授業別 GPCA 集計結果について」および「2025 年度春学期全学 GP 及び授業別 GPCA 集計結果について」を報告した。分析では春学期および秋学期の GP の偏りについては引き続き検討していくこととした。

（3）成績データ GPA/GPCA の妥当性と活用方法の検討と案内

- a 経年の成績データから、これまでの傾向について仮説を立てて検証した。引き続き GPA/GPCA の活用に向けた検討を行う。

以上

2 第1回 FD 教員セミナー

「学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 vol.5」(2025 年 7 月 30 日)

主催：教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

FD

2025年度第1回FD教員セミナー

**学生が選ぶベストティーチャーによる
授業運営の工夫 vol.5**

毎年好評の「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞教員による講演の第5弾です。
実際に授業を受けている学生から多くの支持を受けた授業運営の工夫を紹介します。
セミナー内では質疑応答の時間も設けますので、奮ってご参加ください。

日時

7月30日(水) 18:00~19:30

開催
方法

Zoomによるオンライン開催
※録画による後日配信は行いません

対象

本学教員(専任教員・兼任講師)
・博士後期課程学生

定員

なし

講演者(2024年度受賞)

『わかりやすい授業』の葛藤

金子 匡良
法学部教授

【主な担当科目】
「憲法Ⅰ・Ⅱ」(法学部法律学科)
「憲法と政治Ⅰ・Ⅱ」(法学部政治学科)
「法学(日本国憲法)」(ILAC)
【専門分野・研究テーマ】
憲法、人権法、人権政策

『参加型の授業の作り方』

新谷 優
グローバル教養学部教授

【主な担当科目】
Introduction to Psychology, Social Psychology,
Quantitative Research Methods,
Advanced Topics in Social Psychology,
Cultural Psychology, Self and Culture Seminar
【専門分野・研究テーマ】
社会心理学・文化心理学
(思いやり・援助・自尊・甘えなどの研究)

参加申込方法
右記のQRコード、またはURLにアクセスし、指定の申込フォームにて
お申込みください。

URL <https://short.hosei.ac.jp/FD>

※ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学の
メールアドレス(@hosei.ac.jp)をご入力ください。
※個人情報保護法に基づき、本イベント以外での使用いたしません。

申込締切 7月28日(月) 17:00

法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
TEL: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp



法政大学
HOSEI UNIVERSITY

3 第2回 FD 教員セミナー

「学習支援システム(WebClass)での剽窃チェックソフト(Turnitin Feedback Studio)の利用について」
(2025 年 12 月 23 日)

FD 2025年度第2回FD教員セミナー



**学習支援システム(WebClass)での
剽窃チェックソフト(Turnitin Feedback Studio)
の利用について**

開催日

2025. 12. 23 (火)

18:00 ~ 19:30

オンライン開催

【対象】 本学教員(専任教員・兼任講師)・博士後期課程学生 【定員】 なし

教育開発支援機構教育開発・学習支援センターでは、教育の質的向上に向けた全学的な
教育支援の一環として**剽窃チェックソフト(Turnitin)**を導入しています。

剽窃チェックソフトでは、提出されたレポートを世界最大級のデータベースと照合し、
独自性の低い文章や不適切に引用された文章を特定することができます。

今回のセミナーでは、今年度導入された学習支援システム「WebClass」で
Turnitin Feedback Studioを利用してレポートの剽窃チェックする方法や結果の見方、
学生へのフィードバック方法等について、Turnitin Japanの担当者をお招きして
ご説明いただきます。奮ってご参加ください。

Programプログラム

18:00	開会挨拶
18:05	研修 Turnitin Feedback Studioでできること 利用方法(デモンストレーション)・結果の見方 レポート添削・フィードバックの方法 初年次教育におけるレポート作成指導での活用事例 他
19:20	質疑応答
19:25	閉会挨拶

**お申込
方法**

右記のQRコードから、または下記URLにアクセスし、
指定のフォームからお申込みください。

<https://short.hosei.ac.jp/h4wwn>

※ログインの際に使用するメールアドレスは、
ご自身の法政大学のメールアドレス(@hosei.ac.jp)をご入力ください。



お申込締切 12月21日(日)

お問い合わせ 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター (事務局・学務部学務課 教務支援担当)
kyoiku@hosei.ac.jp



法政大学
HOSEI UNIVERSITY

4 第3回 FD 教員セミナー

「学習支援システム(Hoppii・WebClass)の基本的な使い方」(2026 年 3 月 18 日)

学習支援システム (Hoppii・WebClass)の 基本的な使い方

FD 2025年度第3回FD教員セミナー

日時 **2026.3.18** 水
14:30~16:00

●開催方法 Zoomによるオンライン開催
●対象 本学教員(専任教員・兼任講師)
●定員 なし

セミナー内容

- ・ポータル(Hoppii)の使い方
- ・資料共有の方法
- ・テストやレポート課題の作成・採点方法
- ・授業の受講者に連絡する方法 他

参加申し込み方法
QRコード、またはURLにアクセスし、指定の申込フォームにお申込みください。
<https://short.hosei.ac.jp/9u4pp>
※ログインの欄に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学メールアドレス(hosei.ac.jp)をご入力ください。
※個人情報保護法に基づき、本イベント以外の目的で使いたしません。

申込締切 **3/16(月)**

主催 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター(事務局・学務部学務課 教育支援担当)
kyoiku@hosei.ac.jp

5 第27回 FD・SD ワークショップ

「変革期における新たな大学教育の可能性」(2025 年 9 月 5 日)

第27回 法政大学 FD・SDワークショップ

変革期における 新たな大学教育の可能性

開催日時 **2025.9.5(金)** 13:00~16:00

開催方法 **オンライン(ハイフレックス)**

対象 **法政大学教職員、千代田区キャンパスコン教職員**

第一部 特別講演「教職員における生成AI入門」
生成AIの急速な技術進化により、多くの大学で生成AIの活用開始に関するガイドラインを掲げました。本学も「生成AIツールに対する基本的な考え方」を公開しましたが、学生や教員に限らず大学職員においても教育サービスの向上を目的とした生成AIの活用が期待されています。本ワークショップでは、教育とAIの融合に関する研究・実践で注目される最新動向をお話しし、教職員における生成AIの活用に関する疑問を解消し、活用に向けた具体的な活用事例について学びます。あわせて、情報の正確性、機密情報や個人情報保護などの留意点についても取り上げ、実際に試した活用方法をご紹介します。

第二部 教育支援研修(本学職員対象)
「変革期における大学職員の役割とマインドセット」
平山 富雄 (総長室付教学企画室 部長)

第三部 質疑応答

13:00~13:05 開会挨拶
教育支援本部担当代表業務執行理事・副学長 小秋元 良

13:05~14:05 特別講演「教職員における生成AI入門」
森本 頼博 氏
(元九州大学IT室学術推進専門員、元東京都市大学教員)

14:05~14:30 質疑応答

14:30~15:40 質疑応答

15:40~15:55 質疑応答

15:55~16:00 講師・開会挨拶
教育支援本部部長・学務部長 田中 一平

参加申し込み方法
以下のQRコード、またはURLにアクセスし、指定の申込フォームにお申込みください。
<https://short.hosei.ac.jp/tk5z2>
申込締切 **8月31日(日)**

お問い合わせ 法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター(事務局・学務部学務課)
TEL:03-3264-4268 E-mail:kyoiku@hosei.ac.jp

法政大学
Hosei University

6 学習支援ハンドブック(抜粋)



INDEX

デジタル版はこちら

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>



- 02 法政大学へようこそ WELCOME TO HOSEI UNIVERSITY
02 法政大学へようこそ 08 校歌を知ろう！
- 10 大学で学ぶことは GETTING STARTED
13 時間割をつくる 16 法政ポータルサイト (Hoppli) について
24 授業受講のルールとマナー 26 学習ポートフォリオのすすめ
28 ノートの取り方 30 メールのマナー 31 ディスカッション
32 生成 AI ツールに対する基本的考え方
34 研究者としての倫理について ー科学コミュニティの一員としてー
- 36 成績評価・授業改善 GRADE AND COURSE EVALUATION
36 成績評価を受ける 40 学生による授業改善アンケート
- 42 レポートの書き方 HOW TO WRITE PAPERS
42 レポートを書く 43 レポート課題を吟味しよう！
44 アイデアのまとめ方 ーレポート執筆の下準備ー
46 レポートの構成 47 論証するには？
48 アカデミックライティングの基礎 ーパラグラフとはー
51 先行研究の適切な引用と区別 53 接続表現を適切に使って論理的に文章を組み立てよう！
54 レポート提出前のチェックポイント 55 レポートの文書術 57 校正記号
58 レポート書式の例 60 英文レポート書式の例 62 キーボードに慣れよう！
- 64 プレゼンテーション技法 PRESENTATION SKILLS
64 プレゼンテーション基礎 ー準備ー 66 プレゼンテーション基礎 ー資料ー
68 プレゼンテーション本番 ー心得ー
- 70 文献や情報の集め方 INFORMATION GATHERING
71 図書館を使いこなそう！
74 インターネットでの情報収集 ー信頼できるサイトの見分け方ー
- 78 法政大学お役立ち情報 USEFUL INFORMATION
78 先輩が薦める「とっておきの学習スペース」はここだ！
80 学生生活支援 Q & A
83 あなたも挑戦してみよう！法政大学のコンテスト・奨励制度
- 84 法政大学お宝コレクション SPECIAL HOSEI UNIVERSITY COLLECTIONS
84 法政大学図書館 86 野上記念法政大学能楽研究所
87 大原社会問題研究所 88 沖縄文化研究所 89 HOSEI ミュージアム

1

6 学修成果可視化システム (Halo)

学修成果可視化システム (Halo) (Hosei Assessment of Learning Outcomes) は、正課 (大学の授業に関連した学修) および正課外 (個人の関心にもとづく広範な学修) 両方の学修成果を蓄積し、一元化して確認することで、自らの学修成果を総合的に把握し、主体的な学びに繋げるためのツールです。

定期的に自身の学びを振り返ることで今後の学修計画を立てたり、就職活動の際に自身が大学で学修した内容を振り返ったりと、様々な目的に活用できます。



学修成果可視化システム「Halo」
https://halo.hosei.ac.jp/halo/select_login



学修成果可視化システム (Halo) で、学びはもっと楽しくなる！

成績通知書はPCやスマホの画面だと文字が小さく読みにくいですが、Haloでは自分がどの位置にいるのかが具体的にわかります。Haloの方が見やすいので、通知が来るたびに毎回確認しています。(理工学部3年)

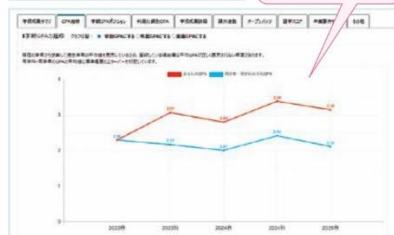
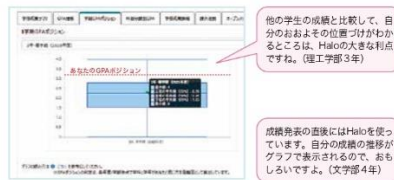


学部の平均は成績通知書でわかりますが、Haloでは自分がどの位置にいるのかが具体的にわかります。Haloの方が見やすいので、通知が来るたびに毎回確認しています。(理工学部3年)

自分の成績がディプロマポリシーと結び付いて表示されるため、どのような能力が身に付いたのかわかりやすい。就職にも使えるんじゃないかと思っています。(経済学部4年)

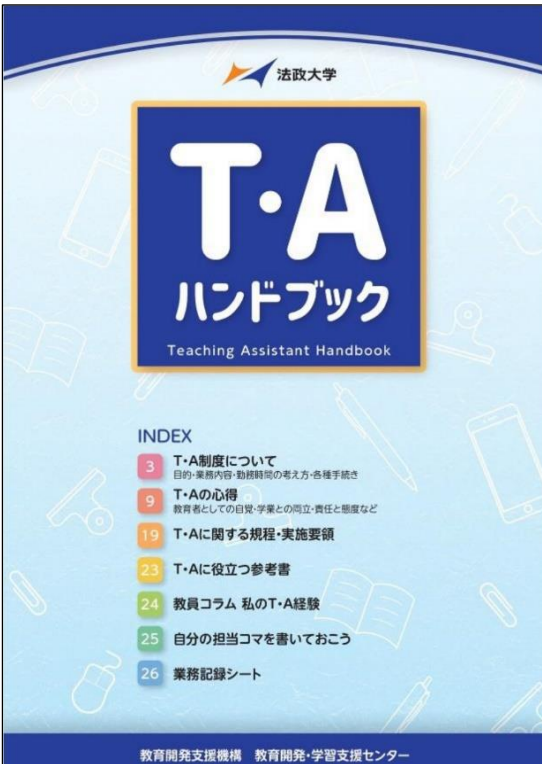
※ディプロマポリシー(DP)についてはpp.10-13を参照してください。

GETTING STARTED 21



22

7 T・Aハンドブック(抜粋)



法政大学

T・A ハンドブック

Teaching Assistant Handbook

INDEX

- 3 T・A制度について
目的・業務内容・勤務時間の考え方・各種手続き
- 9 T・Aの心得
教育者としての自覚・学業との両立・責任と態度など
- 19 T・Aに関する規程・実施要領
- 23 T・Aに役立つ参考書
- 24 教員コラム 私のT・A経験
- 25 自分の担当コマを書いておこう
- 26 業務記録シート

教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

T・Aの心得

01 > 教育者としての自覚 02 > 学業との両立 03 > T・Aの責任と態度 04 > 安全管理 05 > ハラスメントの防止
06 > 個人情報保護 07 > オンライン授業での注意点 08 > 障がいのある学生への合理的配慮

08 > 障がいのある学生への合理的配慮

大学では障がいや疾病等の理由により修学上の困難を抱える学生が共に学んでいます。また、各々の障がいは外見上わかりやすいものとは限らず、発達障がいや精神障がいのように一見してそれとは判断できないものもあります。

本学では障がいのある学生からの申請を受けて、学部や授業担当教員が修学上の配慮を行う仕組みがあり、これを「合理的配慮」と呼んでいます。すべての大学は「障害者差別解消法」により、障がいのある学生に対する「不当な差別的取り扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」が義務付けられています。

みなさんがT・Aとして授業を担当する中で、教員が特定の学生に特別対応をとる場面に接することがあるかもしれません(例:補助器具の使用や欠席授業の資料提供、課題提出期限の延長、試験の代替措置など)。また、授業担当教員がそのような特別対応を行うようT・Aに指示することがあるかもしれません。これらは障がいのある学生への合理的配慮の可能性があり、不適当な点があれば授業担当教員に相談しながら、指示に従い対応してください。その際、当該学生のプライバシーに十分配慮し、業務上知り得た情報をみだりに他言することの無いよう注意してください。特に、障がいの有無や障がいの種類については機微(センシティブ)情報にあたることにご留意ください。

＜参考情報＞

- 障がいのある学生支援の基本方針
<https://www.hosei.ac.jp/hosei/dagaku/syisyu/ninen/hoshin/torikumi/hogakugakuseihin/>
- 障がいの学生支援室
<https://www.hosei.ac.jp/hogai/shien/shisu/>
- 新入生のためのハンドブック～面になる学生をチームで支えるために～
オンラインコースのT・Aの役割について「ip」部内にて参考資料として掲載しています。
- 学内情報 障害者差別解消法リーフレット
https://www8.bao.go.jp/shougou/suakinh/saakia_naafet.html

8 Lステゼミ

2025年度 春学期 Lステゼミ Vol.1

会計ってなに？企業を数値で見よう

比較経営研究所 教授
田中 優希

【内容】「いつか学びたい」と思っていたあなたへ。本ゼミでは、会計の基礎を使って企業を分析する方法を、初めての方にもわかりやすく解説します。会計や企業分析の知識がなくても大丈夫！結果のために企業を見る力をつけたい、将来、起業やビジネスに関わってみたい人におすすめです。

6月4日 水
12:50～13:30
Zoomによる
オンライン開催



食を整えて、メンタルを整える

兼任講師
佐藤 優希

【内容】一日、腸がなさそうに見える「食」と「メンタル」ですが、実は密接に関連しています。食とメンタルの関係について紹介すると共に、近年、注目されている「超加工食品」の増加が心の健康に及ぼす影響についても学びます。

6月13日 金
15:00～16:20
市ヶ谷キャンパスにて
対面開催

映画・ドラマを楽しむための犯罪捜査入門

文学部心理学科 教授
越智 啓太

【内容】刑事ドラマ、映画などをより楽しむために、日本とアメリカの警察がどのような仕組みでどのように捜査活動を行っているのかについて具体的な映画などを題材に解説します。ミステリー・刑事ドラマ、映画などのファンのみでなく、創作や製作を志すひとにもぜひ、参加してください。

6月23日 月
13:10～14:30
市ヶ谷キャンパスにて
対面開催



関係流動性について知れば、あなたは実力を発揮できるかも！

経済学部経済学科 准教授
伊藤 健彦

【内容】このゼミでは、社会心理学の中でも周囲の人々の入れ替わりの程度を表す関係流動性を取り上げます。関係流動性は皆さんのあらゆる心・行動に影響を及ぼします。職業選択の観点から、皆さんの進路選択に役立つお話ができたと思います。

6月23日 月
15:00～15:40
市ヶ谷キャンパスにて
対面開催

2025年度 春学期 Lステゼミ Vol.2

「生命とは何か？」自分の生命観を知るダイヤモンドランキング活用

理工学部生命情報科学専攻
専任講師 准教授
秋山 浩一朗

【内容】「生命とは何か？」という問いは、生命科学の探究だけでなく倫理の観点から、さまざまな分野で取り上げられるテーマで、生命に関わるすべての人にとって、深く関係する重要な問いです。本ゼミでは、「ダイヤモンドランキング」という手法を使い、他者の価値観に触れながら自分の生命観を見つめます。この体験を通じ、理論的な知識だけでなく、創作などの幅広い分野に活かせる視点を養うことを目指します。

6月26日 木
13:10～14:20
市ヶ谷キャンパスにて
対面開催



世界とつながる韓国の昔話

兼任講師
神谷 丹路

【内容】「主観の目は口バの目」と聞くと、ヨーロッパの諺話？と思われ方も多いでしょう。これ、実は韓国にも古くから伝わる昔話なんです。韓国の諺話を案に、世界とつながる韓国の文化や歴史について、あれこれ語りましょう。

7月4日 金
16:50～18:10
市ヶ谷キャンパスにて
対面開催



武器としての趣味論：エリートはなぜ趣味までガチ？

兼任講師
八田 益之

【内容】なぜビジネスエリートは趣味まで本気でハマるのか？ぜひ「ガチ趣味」に突き合う理由と活用を、トライアスロン等を題材に、キャリアデザインの観点から考察。参加者それぞれの趣味の活かし方も探ります。

7月9日 水
16:50～18:10
市ヶ谷キャンパスにて
ハイフレックス開催



めくるめく南米民族音楽の世界へ！

兼任講師
相田 豊

【内容】不思議なカチカチの楽器、聞いたことのないメロディー。日本から遠く離れた南米の民族音楽の世界を旅してみませんか？この講座では、実際に楽器を聞いてみたい、楽器に触ったり、現地の音楽をじっくりしながら、南米ボリビアの音楽を体験します！

7月18日 金
15:00～16:20
市ヶ谷キャンパスにて
対面開催



申込方法

右記のQRコードよりアクセスの上、指定の申込フォームにてお申し込みください。

※申し込み期限は、原則各実施日の2日前です（月曜実施のゼミは前週の木曜まで）。以降にお申し込みをしても申込などの詳細は案内することができませんのでご注意ください。

※申込者には、前日までに会場の情報をお送りします。



申込方法

右記のQRコードよりアクセスの上、指定の申込フォームにてお申し込みください。

※申し込み期限は、原則各実施日の2日前です（月曜実施のゼミは前週の木曜まで）。以降にお申し込みをしても申込などの詳細は案内することができませんのでご注意ください。

※申込者には、前日までに会場の情報をお送りします。



19

2025年度 秋学期 Lステゼミ Vol.1

政治家にだまされないための政治リテラシー
講師 山内 康一

【内容】衆議院議員4期の経験を活かし、反知性主義が広がるなかでフェイクニュースや政治情報の受け取り方、ニュースの読み方、インターネットとの付き合い方などについてお話しします。

11月11日 火
15:00～15:40
市ヶ谷キャンパスにて 対面開催

クラウドを活用した簡易な数値最適化アプリケーション構築
講師 高須賀 将秀

【内容】本講座では、皆さんの身の回りに存在する様々な課題を数値最適化で解決するための実践的知識とスキルを習得します。基礎理論から始まり、Excel、Python、Streamlitを用いた実装方法、さらにはクラウド環境でのアプリケーション構築まで段階的に学習できます。

11月14日 金
10:50～12:10
市ヶ谷キャンパスにて 対面開催

北京冬季五輪におけるパフォーマンス向上のための医科学サポート
講師 竹内 洋輔

【内容】北京冬季オリンピックフィギュアスケート代表に対して実施した医科学サポートについて随時、実地レポートを中心にどのようにパフォーマンス向上に結びつけたか、また一般学生に対してどのように認知能力や生活におけるパフォーマンス向上に結びつけるかを論じます。

12月1日 月
15:00～16:20
市ヶ谷キャンパスにて 対面開催

文学探求：「日本文学」編
講師 リッチングス ヴィッキー アン

【内容】本ゼミでは、明治から大正期にかけて台頭した文芸思潮「耽美派」とは何かという問いを出発点とし、日本文学の歴史的発展を辿りながら、代表的な作家や作品を紹介し、その美的特質や思想的魅力を探ります。

12月4日 木
15:00～15:40
Zoomによる オンライン開催

レゴ®でミライをデザインしよう！
経営学部経営学科教授 吉村 喜子子

【内容】レゴ®コンストラクションメソッドを使ったワークショップを通して、自分の「やりたいこと」や「好きなこと」を見つめるきっかけをつくり、自分がワクワクしたり、いきいきと感じたりすることをテーマに作品をつくりながら、グループで活動します。その中で、自己理解やお互いの理解を深めたり、コミュニケーションを通してタスクをやりとげる楽しさを体験したりすることが出来ます。

11月17日 月
15:00～16:20
市ヶ谷キャンパスにて 対面開催

「非日常」の選挙の変容と「日常」の政治
講師 宮崎 一徳

【内容】宇野浩二氏が「民主主義とは、(間)何も持たない人々にとって、唯一の世界に委身で戦う方法にならなければならない。」(『漂い』インターネット) (『日本文学』2023年)としていたことが、日本でも活況。これを分析します。

11月26日 水
15:00～16:20
市ヶ谷キャンパスにて ハイフレックス開催

地球温暖化と気象災害
講師 丸本 美紀

【内容】近年、地球温暖化に伴って頻発する豪雨や猛烈な台風による自然災害が毎年のように発生しています。このような気象災害に対してさらなる対策が求められる一方、気象庁が発する気象情報はわかりにくく情報に付加価値がないという声も浸透してきています。このゼミでは、地球温暖化によって今後増加するであろう気象災害への対策について、上記の気象情報の存在意義、どのような問題があるのかを一緒に考えてみたいと思います。

12月9日 火
15:00～16:30
市ヶ谷キャンパスにて 対面開催

申込方法

右記のQRコードよりアクセスの上、指定の申込フォームにてお申込みください。
※申し込み期限は、原則各実施日の2日前です(月曜実施のゼミは前週の木曜まで)。
※隔週お申し込みをしても会場などの詳細は案内することができませんのでご注意ください。
※申込者には、前日までに会場の情報をお送りします。

申込方法

右記のQRコードよりアクセスの上、指定の申込フォームにてお申込みください。
※申し込み期限は、原則各実施日の2日前です(月曜実施のゼミは前週の木曜まで)。
※隔週お申し込みをしても会場などの詳細は案内することができませんのでご注意ください。
※申込者には、前日までに会場の情報をお送りします。

9 プレFDプログラム

博士後期課程に在学中の皆様へ

2025年度プレFDプログラム

概要

プレFDとはこれから大学教員になろうとする大学院生・ポストドクターのための教育能力の向上を目的とした活動 (Faculty Development) のことです。法政大学では、プレFDプログラムとして以下の取り組みを実施いたします。

1. 学部授業参観

「学生が満足できる授業」を実現した教員 (指導力者) の授業を観望する教員の授業を参観する (計られた授業のみ) とし、授業実施における各教員を自分自身に近づけるための機会です。

実施の流れ

- ①授業参観したい授業を選び、お申し込みください。
- ②授業参観可能な授業 (ただし、担当教員の許可が必要)。
- ③ポストドクター・専任教員が参観する授業。
- ④参観後、授業参観した教員、参観した教員と意見交換を行います。
- ⑤上記以外の授業参観希望する授業。

全年度授業参観の可否を参観教員に確認・日程の調整を行います。

参観期：2025年5月12日(月)～7月23日(水)
参観期：2025年10月13日(月)～12月24日(水)

2. Lステゼミ

本学学生を対象に半期で10回、ショートゼミです。多様なテーマについて、気軽に学ぶ機会を学生に提供することを目的として実施しています。後方データは自己分析が可能です。

実施方法

対面・ハイフレックス・オンラインのいずれかで実施

実施時間

70～80分

実施の流れ

- ①参観内容に基づき、実施日等の詳細を希望と調整し決定します。
- ②参観学生と参観教員との意見交換を行います。
- ③フィードバックを受けた内容を参観にお伝えください。
- ④資料を準備いただき、当日ゼミを行います。
- ⑤全年度実施。参観中からフィードバックを受けたい。

参観期：2025年5月12日(月)～7月23日(水)
参観期：2025年10月13日(月)～12月24日(水)

1回：8,000円

3. 授業リフレクションのための学生による授業参観

学生の視点からの意見をとり入れ、授業や教育方法の改善に活かすための制度です。参観学生は指定のチェックシートに基づき、Lステゼミの場での参観 (参観教員に参観を依頼) し、参観教員に建設的なフィードバックを行います。

実施の流れ

- ①上記「2. Lステゼミ」をお申し込みください。
- ②参観希望を受けた学生の中から、参観学生の学生をLステゼミに参観します。
- ③学生は参観に参観教員と1対1の参観を行ううえで、Lステゼミを参観します。
- ④参観後、参観学生は参観教員に参観にフィードバックを行います。

4. その他の取り組み

以下リンクより新任教員研修会において教育研修・学習支援センター長が行った参観の講演動画を公開しています。
参観計画・授業実施の場での参観としてご参観ください。
Hoop-オンデマンドシステム (「統合認証IDの方」よりログイン) > 新任教員研修

オープンバッジについて

大学教員を目指すにあたって、教育能力向上を目的に参観した知識・スキルを対外的に示すため、1～3の制度を利用したオープンバッジ (デジタル資格) を発行していただきます。

オープンバッジについての詳細は一般教員・学生・オープンバッジ・ネットワークのHPをご覧ください。

募集期間

春学期：2025年4月7日(月)～5月7日(水)
秋学期：2025年9月18日(木)～10月8日(水)

上記1～3の制度のお申し込みはこちら

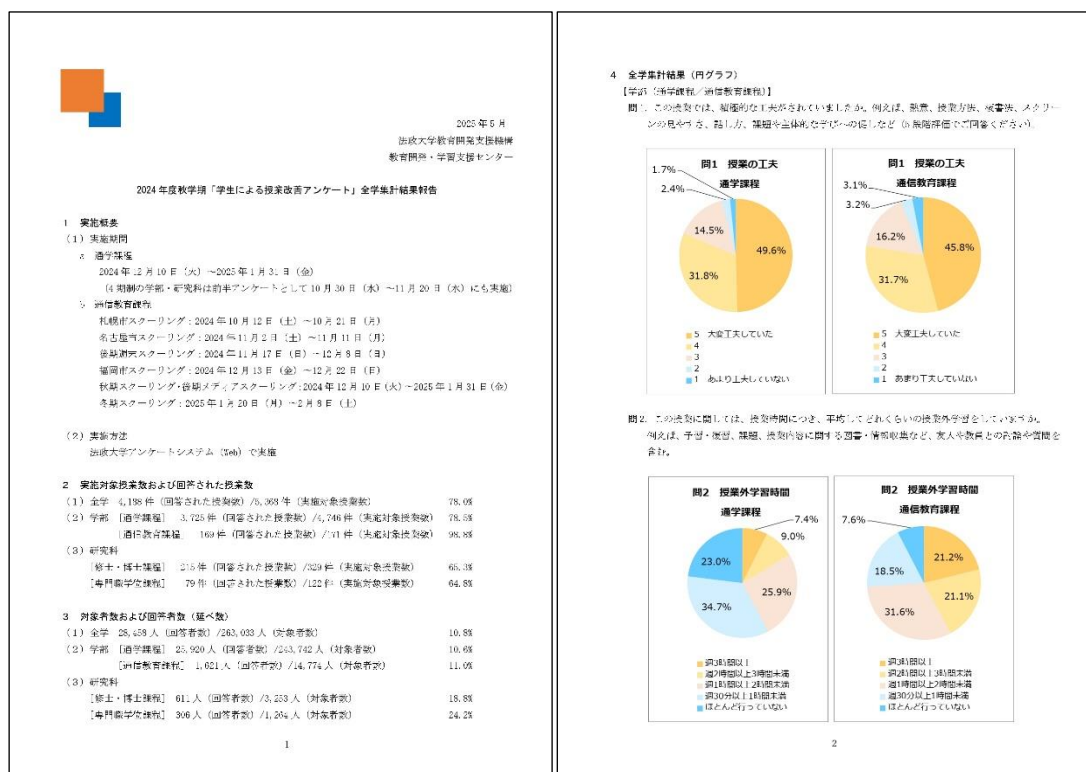
お申し込みの案内もお待ちしております。

<https://form.hosei.ac.jp/27/2752362>

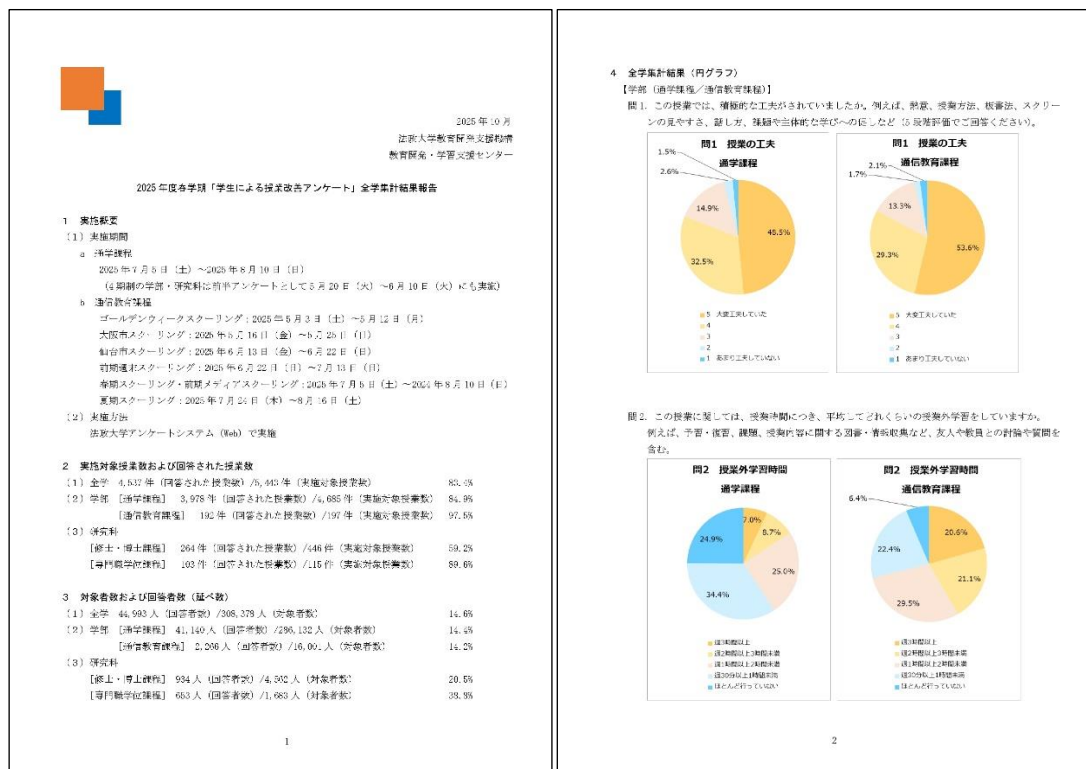
問い合わせ先：法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター(事務局：学習支援教育課)

TEL: 03-5264-6268 / Mail: kyociku@hosei.ac.jp

10 2024 年度秋学期「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書(抜粋)



2025 年度春学期「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書(抜粋)



11 生成 AI ツールの利用に関する教員および学生対象調査（抜粋）

2025 年 1 月
法政大学教育研究支援機構
教育開発・学習支援センター

生成 AI ツールの利用に関する教員および学生対象調査の実施結果について

1. 教員対象調査の概要および回答状況

(1) 目的
生成 AI ツールが教育現場において様々な領域で活用を促しつつあるなか、本学における教員の生成 AI ツールの利用状況やリテラシーに関する把握を促進し、授業における活用事例を共有することを目的とする。その上で、当センターとして、生成 AI ツールをどのように教育改善や学習支援に活かしていけるかを検討する。

(2) 調査期間
2025 年 9 月 25 日（木）～10 月 17 日（金）

(3) 調査対象
2025 年度授業担当教員

(4) 調査方法
法政大学アンケートシステム（Web）で実施

(5) 回答状況
407 人（回答者数）/2,964 人（対象者数） 回答率：13.7%

2. 学生対象調査の概要および回答状況

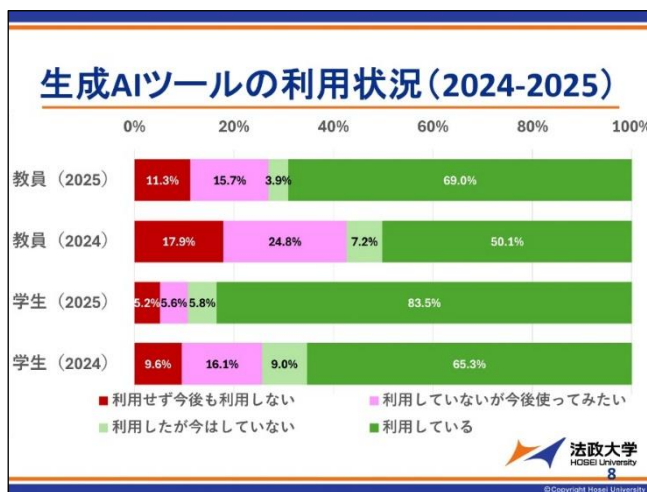
(1) 目的
生成 AI ツールが手軽に利用できるようになっているなか、学生の生成 AI ツールに対する考えやリテラシーに関する認識を把握することで、今後の教育改善や学習支援に活かすことを目的とする。また、生成 AI ツールに対する学生のリテラシー向上を目指す。

(2) 調査期間
2025 年 9 月 25 日（木）～10 月 17 日（金）

(3) 調査対象
全学部生（各学部内）・入学生

(4) 調査方法
法政大学アンケートシステム（Web）で実施

(5) 回答状況
556 人（回答者数）/32,179 人（対象者数） 回答率：1.7%



生成AIツールの利用に関するアンケートのまとめ

- ・ 教員・学生ともに生成AIツールの利用が増加しており、前向きな姿勢が強まっている
- ・ 学生：生成AIの特性の理解が進む一方、引用方法や個人情報保護など基礎リテラシーに課題あり
 - － これらの注意喚起や体系的な教育が求められる
- ・ 教員：ファクトチェックや不正検知などの実践的なスキルが不足
 - － 引用やファクトチェック、オプトアウト設定などのAIをうまく活用するための講習が必要
- ・ 教員：生成AI時代の教育的課題への意識が高い
 - － 教育利用に関して、生成AIの特性と限界を理解したうえで、安全性と信頼性を確保しつつ、批判的に検証しながら活用するための工夫の報告もあった

法政大学
HOSEI University
41
© Copyright Hosei University

12 LMS の利用に関する教員対象アンケート(抜粋)



2026 年 1 月
法政大学教育開発支援機構
教育開発・学習支援センター

LMS（学習支援システム）の利用に関する教員対象調査の実施結果について

調査概要および回答状況

(1) 目的
2025 年度より本学で運用している学習支援システム（WebClass）について、利用状況や使用感を把握するとともに、本システムを活用した授業運営時の工夫等を調査し、今後の事例共有等の検討材料とするため。

(2) 調査期間
2025 年 11 月 25 日（火）～12 月 22 日（月）

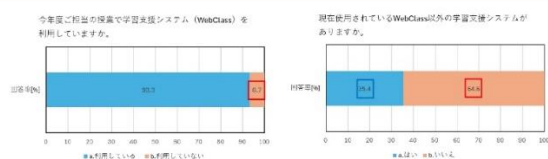
(3) 調査対象
2025 年度院舎推進教員

(4) 調査方法
法政大学アンケートシステム（Web）で実施

(5) 回答状況
435 人（回答者数）/2,964 人（対象者数） 回答率：14.7%

回答の集計③

5/9



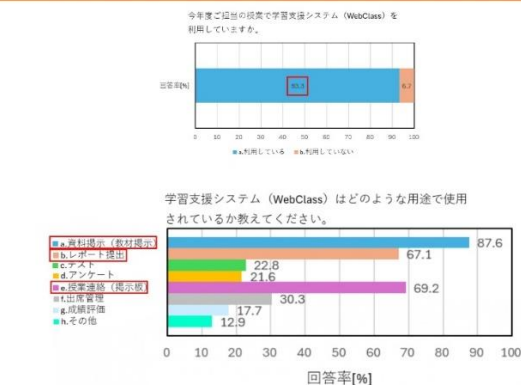
学習支援システム(WebClass)を利用していないと回答した人のうち、
WebClass以外の学習支援システムがあると回答した学習支援システム
・「Google Classroom」、「Moodle」、「CANVAS」など

いずれの学習支援システムも利用していない理由

- ・学習支援システムを使用せずに授業が行える
- ・WebClassが使いにくい
- ・使い方がわからない、説明が不十分など

回答の集計④

6/9



※その他の利用として、「タイムライン」、「メール(学生への個別連絡)」、「チャット」など